

江原中学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- わかりやすい発問や ICT の効果的な活用により、生徒の思考を深める授業の実践
- 深めた思考を認め合い、話し合い、学び合う場面がある授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長	竹内寛泰	第1学年主任	森川真由美
川原 侑子		教頭	松尾聖子	第2学年主任	三宅 央子
		教務	佐藤茂樹	第3学年主任	真鍋 友介

校長

竹内寛泰

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

学び合いウイーク(教員同士の授業見学会等)により、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中は落ち着いて、真面目に取り組んでいる。 ○課題に真面目に取り組む、提出物は必ず提出するよう心がけている。 ●家庭学習が足りておらず、学習方法があまり身に付いていない。	・授業の目標を理解して見通しをもって学び、学習内容をノート等から振り返ることができる。 ・家庭学習で自主勉強ノートを有効に活用し、学力の確実な定着につながる方法を知る。	・授業の目標や流れを黒板に可視化し、具体的に提示する。 ・ICT を効果的に活用することで、生徒の理解を深める授業づくりに努める。 ・自主勉強ノートを有効に活用できるように、個別にノート指導を行う。	・個に応じた家庭学習の方法について考える時間を設けた。 ・学習支援ソフトを家庭学習の課題として活用する。	・定期テストや実力テストの前に自分のノートを見直し、授業中の学習の復習をすることができた。 ・家庭学習について、自分に合った方法を見つけ、実践する生徒が増えてきた。	・学習支援ソフトやICTを授業の形態や学習内容に合わせて効果的に活用できる場面を探り、全体で共有する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○多くの生徒が、朝学習の時間や昼休みに読書をしている。 ○基礎的、基本的な知識や技能を習得した上で、それを活用して課題を解決しようとしている。 ●文章の読解力が乏しい。 ●自分の考えを相手にわかりやすく伝えることが苦手な生徒が多い。	・言語活動を通して、主体的に学習を進めていくことができる。 ・自分の考えを、自分の言葉で伝えることができる。 ・表現力があり、相手に分かりやすく伝えることができる。	・授業の目標に合った学習形態(ペア学習やグループ学習等)を積極的に取り入れる。 ・総合的な学習の時間で、パワーポイント等を使った発表を増やしていく。 ・表現の方法を明示し、自分の言葉で伝えられるように支援する。 ・タブレット端末のホワイトボード機能や付箋機能を活用し、情報の可視化や共有を円滑にする。	・全国学力・学習状況調査では問題によって無回答がみられたので、改善に向けて努力する。 ・各教科で、授業のめあてと流を明示し、「わかりやすい授業」を心がける。 ・テストで思考力を問う問題を増やすことで、力をつけさせる。	・テスト反省をして間違ったところや覚えていなかったところを学習し直し、次の定期テストや実力テストにおいて、無回答の答案が減り、諦めずに最後まで解く姿勢がみられた。 ・テストで思考力を問う問題を増やすことによって、粘り強く考えて解くことができるようになった。	・グループ活動を様々な場面で取り入れることを通して、コミュニケーション能力を更に高める。また、プレゼンテーションを作成したり発表したりする機会を増やすことで思考力・表現力を伸ばしていく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習に意欲的に取り組み、課題にも熱心に取り組んでいる。 ○学習内容に興味・関心をもち、課題解決に向けて努力しようとしている。 ●学習意欲が乏しく、指示されてから行動する生徒がいる。	・自ら学ぶ意欲をもち、学ぶ喜びを実感し、目標達成に向けて努力できる。 ・課題の解決に向けて主体的に取り組む、自分の力で答えを導き出そうと努力できる。	・毎時間、生徒が授業内容を振り返り、自己評価できる時間を作る。それにより、自尊心を高め、意欲を向上させる。 ・生徒の実態に応じた個別の課題を設定し、主体的な取組への意欲を引き出す。	・「家庭学習の友」の反省と目標を記入することで、自分の学習の取組を可視化し、随時振り返ることができるようにする。	・授業の中で振り返りの時間を必ず設け、学習状況の確認をすることができた。 ・生徒一人ひとりが、目標に対して振り返りの時間が取れた。	・学校や家庭学習での習慣が定着していない生徒には個別に対応し、課題の解決に努める。

令和5年度 学力向上ロードマップ

